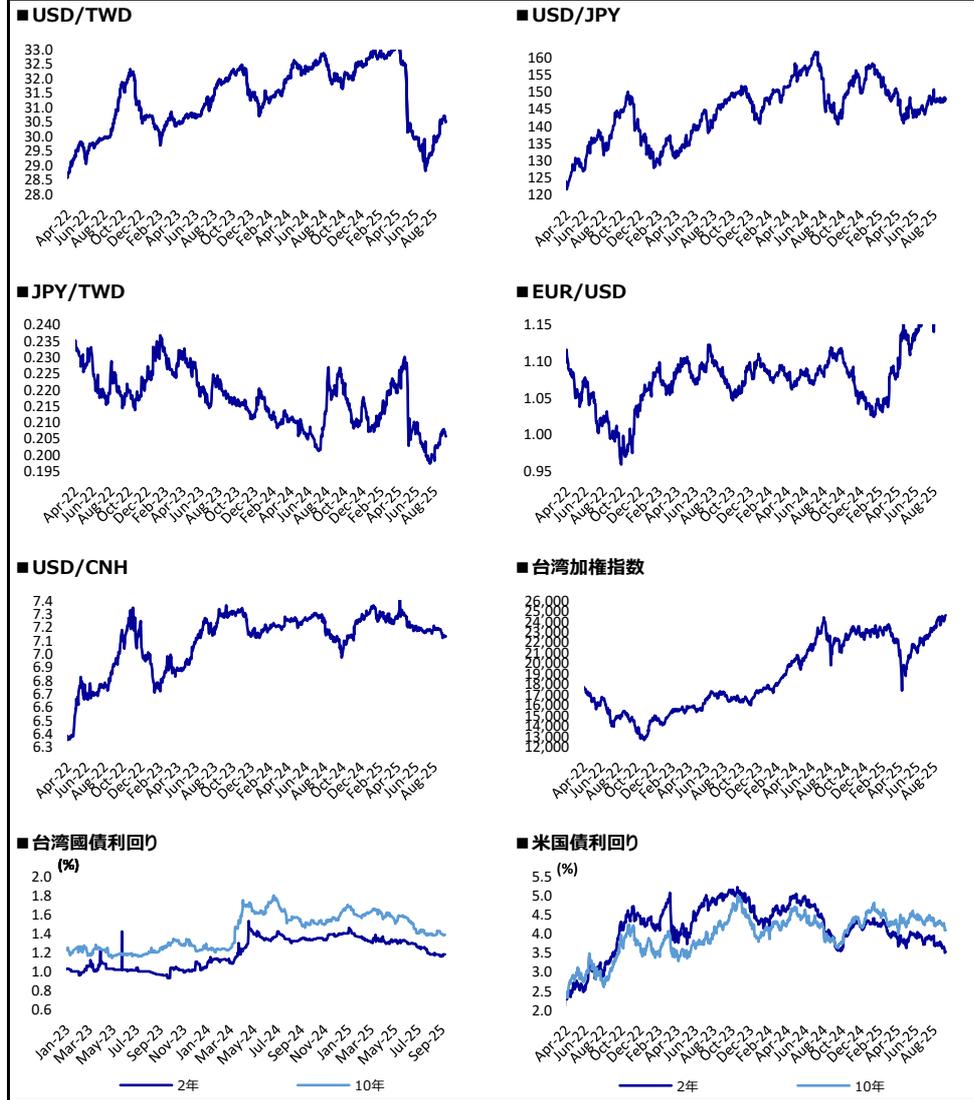


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは上昇。9/1、30.530でオープンした後、海外市場でドル買いがやや優勢になるにつれ、アジア通貨の下落となったが、輸出業者はドルの売却に後ろ向き。午後、台湾株式市場は下落し、外国投資家による台湾株売りでUSD/TWDは30.630でクローズ。9/2、アジア通貨が全般的に軟調に推移したことに加え、台湾株も売り優勢のため、ドル買い圧力は継続した。9/3、世界的な長期金利の上昇に伴うリスクオフ相場を受け、ドル買い優勢の展開が継続し、一時4か月ぶりの高値30.755まで上昇。午後には原油輸入業者と投資信託が押し目買いを行い、USD/TWDは30.728まで下落。9/4、ドルの小幅反落と台湾株式市場の上昇により、台湾ドルは上昇し、USD/TWDは一時30.655レベルまで反落。しかし、その後すぐ買いフローに入り、USD/TWDは30.704でクローズ。9/5、リスク許容度の回復や海外市場におけるドル安を受け、台湾ドルは終始買い優勢の展開。午後、外国人投資家による台湾株買いが活発化し、ドル売りが拡大し、USD/TWDは30.537まで反落。最終的には前週比0.03%ドル高台湾ドル安の30.615でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は484.08億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは上昇。9/1、146.80でオープン後、米国休日で取引が低調だったことや投資家が直近の米国インフレデータやトランプ大統領の関税の大半は違法とする判決を評価していることから、小幅値動き、USD/JPYは147.19でクローズ。9/2、自民党森山幹事長の辞意表明し、与党の混乱が深まる中、円は下落圧力を受け、USD/JPYは148円台半ばまで急上昇。9/3、石破首相と植田総裁の会談後、経済・物価動向が日銀の見通しと一致する限り、利上げへの距離感が遠のいていない旨の報道を受けて、USD/JPYは一時約1か月ぶりの高値149.13まで上昇。海外では、米7月JOLTS求人件数が10か月ぶりの低水準に落ち込みにつれて、労働市場は悪化し、USD/JPYも148.10でクローズ。9/4、アジア時間で148円台で推移。海外では、米国労働省が発表された先週の新規失業保険申請件数が予想より上回った。一方、米8月民間雇用者数が予想を下回り、米国債利回りの低下を受け、USD/JPYは148.48でクローズ。9/5、米国労働市場の軟調に伴い、米国債利回りは低下し、ドル対主要通貨は下落し、USD/JPYは148円前半で推移。海外時間では、米8月雇用統計が伸び率が縮小し、失業率は4.3%とほぼ4年ぶりの高水準にまで上昇し、労働市場の軟調を裏付けた。最終的には前週比0.24%ドル高円安の147.41でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：30.200-30.700
今週のUSD/TWDは上値重い展開を予想。米国雇用統計は予想より下回ったことは、労働市場の軟化を裏付けるものであり、ドルへの圧力を強め、米国債利回りの低下とFOMCによる利下げの確率が大幅に上昇。今週は米国インフレ指標に注目が集まる。

■ USD/JPY 予想レンジ：146.80-150.00
今週のUSD/JPYはレンジ推移となる予想。米国雇用統計が予想を下回ったことで、FOMC9月の会合で利下げを再開するとの見方が強まった。さらに日本の石破首相は戦況連敗の責任を取って辞任。政治的な不安定さが円の見通しに不確実性をもたらしている。今週は米国のインフレ関連データに注目が集まるだろう。

今週の予想

9/8 (MON)	日Q2GDP、中国8月貿易収支
9/9 (TUE)	台湾8月貿易収支
9/10 (WED)	中国8月消費者物価、米8月生産者物価
9/11 (THU)	ECB定例理事会、米8月消費者物価
9/12 (FRI)	米9月ミシガン大学消費者マインド指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。